

再生の具体的目標と指針について

- ・石西礁湖全体にわたって、1972年の西表国立公園指定（本土復帰）当時のサンゴ礁生態系の健全性を回復する。
- ・当面は現状より悪化させない。

具体的目標と指針の例

	施策	指標	成果		目標 (イメージ)
			短期的(10年後)	長期的(20年後)	
水質の浄化	赤土流出防止	SPSS	5以下が90%以上	すべての海域で5以下	<ul style="list-style-type: none"> ・すきとおった海 ・陸からサンゴが生育する海 ・イノーはモズクとアーサ採りのオーバーで賑わう
	下水道整備	接続率	80%以上		
	畜舎排泄物	処理施設整備率 利用率			
サンゴ群集保 全・修復	保護区域の設定	海中公園地区の指 定面積	5割贈、特に多様性 の高い礁斜面(ウラ ビシ、ウマノハピー 等)を含める。礁地 形を包括的に指定 し、区域をわかりや すくする。世界平均 の半分800ha。	倍増、国立公園全体で、 世界平均面積の 1,584ha(現在 213.5ha)に近づける。	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴのお花畑が咲き誇っている。
	サンゴ群集修復	修復面積	1ha以上のサンゴ群 集を再生	修復サンゴ群集が幼生 供給源として寄与	

	サンゴ群集の保全	被度	現状より低下しない。オニヒトデの大発生後 10 年で現状レベルに回復、多様なサンゴ群集タイプを保全する。	枝状ミドリイシの高被度域が現状より倍増	
持続可能な漁業利用	管理型漁業	漁獲量（特に漁獲されやすいヒメシヤコガイを指標とする。ほっておけば自然に増える）	保護区の資源量が年々増加する。	礁湖内の適性漁獲量、資源量が安定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・クジラブツダイが群れ泳ぎ、ギーラが湧く ・サバニの上のオジーは今日も笑顔で帰ってきた。
		平均漁獲サイズ			
		漁獲努力量あたり漁獲量			
	養殖漁業、栽培漁業等の推進	パヤオ設置個数（礁湖漁獲圧を回避）			
	観光型漁業の推進	利用者数 事業者数			
普及啓発	総合学習の推進	サンゴ礁に関する総合学習の実施校	半数以上	全校	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の日差しに、水しぶきをあげてはしゃぐ子どもたちの白い歯が眩しい。
	自然教室の実施	スノーケル経験児童	8 割以上	全員	
	施設整備	サンゴ学習館の設置	完成	利用者人	
主体的参画	再生事業への参加	参加者公募型移植事業の実施	参加者数		
・・・					
